

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

No.154
SOUSEI
2011.8



第十九期始

重力

卷頭特集

東日本大震災と 向き合った僧侶達

取材・文 西屋真司(カラスブックス)



災害支援に電話相談事業
慈悲行が試される局面を
私達は突きつけられている

全国曹洞宗青年会第18期会長 久間泰弘師



災害復興支援部で、被災地ニーズとボランティアのマッチングを図る久間泰弘師。

「数日後に被災地へボランティアに出発します。我々は支援活動で手一杯になりますので、活動の記録係として同行していただけませんか?」

全曹青広報委員会からそう要請され、その迅速な決断にまず感心させられた。震災発生から僅か数週間しか経過していないなかった当時は、ボランティア側も燃料や食料、寝床などを自活できなければ、却つて足手まといになると言われていた時期。加えて深刻さを増す一方の福島原発事故が、現地に大きな影を落としていた。それでも曹洞宗青年会が取り組む傾聴活動への関心と、未曾有の現場へ臆することなく赴く僧達の決意に惹き付けられ、岩手での行茶活動に同行させて貰うこととした。僧侶たちの強い行動力が、一体何処から生まれているのか知りたいと思つた。

「数日後に被災地へボランティアに出発します。我々は支援活動で手一杯になりますので、活動の記録係として同行していただけませんか?」

災害復興支援現地本部の奮闘

福島市の隣、伊達市靈山町の成林寺に設置された災害復興支援現地本部の一室で、久間泰弘師（40）は全国から集つた青年僧侶への指示に奔走していた。「この数週間、東北各地を状況・安否確認に走りました。筆舌に尽くし難い惨状です。当寺は壁や瓦が崩れる程度の被害で済みましたが、富岡町にある御本寺は甚大な被害が出てしましました」出張中に震災に見舞われた久間師は、14日に漸く地元福島へとつて返すと近隣の市町村を巡り、地域の人々や曹洞宗寺院の支援に尽力してきた。原発事故で立ち入りが制限されていた20キロ圏内へも赴いたと聞き、その並外れた行動力に舌を巻いた。今回、全国の曹洞会から有志が参じたのも、支援部からの要請に応えてのことだという。この曹洞宗青年会が備える「即応性」こそが、未だ支援が不十分な被災地で、確かな力を發揮しているのだと腑に落ちた。

「私が会長を務めた第18期では、『いのちの声に耳を澄ます』とのスローガンを掲げました。苦悩する人々への電話相談事業や災害復興支援部の設立を進めてきましたが、それらの経験が奇しくも活かされる局面を突きつけられています。ここ伊達市でも放射線の危険が叫ばれていますが、果たして僧の身でいま避難しても良いのかという、苦しい思いもあるのです」と久間師。そ



岩手県で先行して行茶活動を行った僧達から、経験と今後の配慮点などがつぶさに掬い上げられる。



成林寺（伊達市）境内に設けられた
全曹責災復興支援現地木部

避難所となった体育館で、人々と語らう久間師。誰かに話すことでの人の心は少しだけ軽くなる。



珈琲の薰りに誘われて、わざわざ避難所に戻って来る人も見られた。



岩手県山田町の活動拠点となっている龍泉寺。



第18期の任期を終えた久間前会長。被災地への思いは第19期へと引き継がれた。



「僕はココアがいい！」嬉しい子ども達から笑顔がこぼれる。

矢夫人と可愛らしい娘さんの笑顔が思
い出される。伊達市靈山町から福島第一原発までは60キロの距離。高い放射線
が観測された飯舘村は隣村だ。自らも
被災しながらボランティア活動に奔走
する師の姿に、宗教者という人生の嚴
しさを垣間見た。

苦悩する人々の伴走者として

翌日、岩手県山田町に移動して行わ
れた行茶活動の様子は、思い描いてい
たものとは全く異なっていた。久間師
らは法衣を纏わず、僧籍にあることさ
え敢えて前面に出すことなく、ジャー
ジ姿で献身的に飲物と菓子を配り続け
た。震災後に初めて薰り立つ珈琲を味
わって、避難生活に疲れた人々の顔が
ぱッと和らぐ。

「どこから来てくれました？」
「福島からです」

「そちらも大変だろうに、ありがとうございます」

やがて打ち解けた人の口から津波の恐怖が語られ、久間師は静かに耳を傾ける。そこには宗門の装いも無く、ただ人と人の心の交流だけがあった。現地で拠点を提供している、龍泉寺の石ヶ森桂山住職（37）が言われた。

「震災翌日から顔見知りの多くを送り、私自身も誰かに話さねばやりきれない思いを抱えています。縁者を亡くした人が自らそのことを語るのは、そうす

の言葉に、到着を出迎えて下さった亜矢夫人と可愛らしい娘さんの笑顔が思
い出される。伊達市靈山町から福島第一原発までは60キロの距離。高い放射線
が観測された飯舘村は隣村だ。自らも
被災しながらボランティア活動に奔走
する師の姿に、宗教者という人生の嚴
しさを垣間見た。

苦悩する人々の伴走者として

翌日、岩手県山田町に移動して行わ
れた行茶活動の様子は、思い描いてい
たものとは全く異なっていた。久間師
らは法衣を纏わず、僧籍にあることさ
え敢えて前面に出すことなく、ジャー
ジ姿で献身的に飲物と菓子を配り続け
た。震災後に初めて薰り立つ珈琲を味
わって、避難生活に疲れた人々の顔が
ぱッと和らぐ。

「どこから来てくれました？」
「福島からです」

「そちらも大変だろうに、ありがとうございます」

やがて打ち解けた人の口から津波の恐怖が語られ、久間師は静かに耳を傾ける。そこには宗門の装いも無く、ただ人と人の心の交流だけがあった。現地で拠点を提供している、龍泉寺の石ヶ森桂山住職（37）が言われた。

その後、お子さんと共に、安全な地区へ一時避難されたと知つて胸を撫で下ろした。久間師は現在も成林寺に留まり、各地に広がった行茶活動を現地スタッフと共に指示しておられるといふ。傷つきながらも今なお素晴らしい東北の風景と、責務に奔走する僧たちの姿が瞼に甦る。これからもそんな多くの献身に因つて、被災地の傷がゆっくりと癒されることを祈りたい。

ることで、少しでも気持ちを整理しようとしているのでしょうか

この日、温かい一杯を手渡すために各地から僧が集い、再び歩み始める人の傍らに寄り添つた。その様子をありがたい思いで見つめるうち、いつしか作業に参加する自分がいた。

被災地から遠く離れた地に戻り、あの日お会いした人々のその後が気になり始めた頃、現地で今日も続く傾聴活動の記録と共に、久間夫人からの便りが届けられた。

一 会長任期がスタートしてからというものの、疲れて帰山する姿を見ると頭の下がる思いを抱きながら、何でそこまでやるのかなと思うこともありました。この度の大震災では、私も全国の寺族のお仲間に物資を送つて頂いたりと本当に助けて頂いております。泰弘さんも同じように、全国のお仲間に支えられて來たのだろうと思います――

「避難所になつたお寺」

岩手県下閉伊郡山田町 曹洞宗 龍昌寺

「支援してくれた方々に、一体何をお返しできるだらうか…。それが私の偽らざる悩みです」

清水誠勝住職（67）は、国境をも超えて寄せられた数多くの支援物資に困まれながら、心なしか表情を引き締めた。間一髪で津波や火災の被害から逃れたここ龍昌寺は、指定避難所ではないにも関わらず、震災発生直後から多くの地域住民が身を寄せてきた。私が訪問した6月下旬には14名に減少していたものの、避難スペースとなつた仏教会館2階には当初70名ほどが身を寄せていたという。

震災発生当初は、電気・通信手段は断たれていたものの、プロパンガスはかろうじて使用でき、「お仏供米」もあつた。しかし、肝心の水道が使えない…。そこで、断水していない地域から水を

見て、和尚として、こうしてはおられないと思つたんです」

その後、避難者同士が自然と役割分担をするようになり、調理や掃除、物資の仕分けに至るまで、全て自主的に運営してきた。その間、清水師は、

避難者がなるべく自然体で生活できるよう、基本的には口を挟まない姿勢をとつてきたという。しかし、「周囲の干

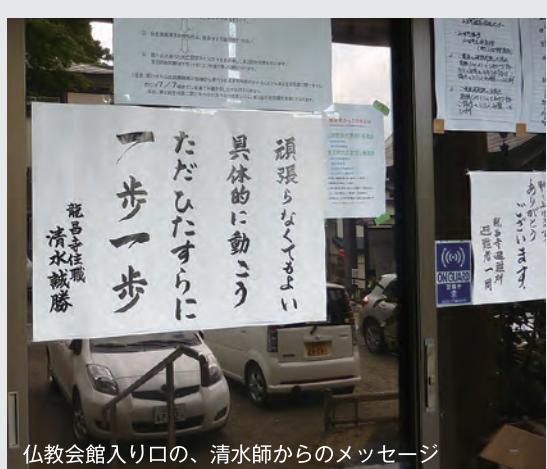
2～3日して、お檀家さんや地域の方々、さらにはボーカスカウト岩手連盟など、もともと縁のあつた様々な団体から食料が届けられるようになり、食料事情は改善されていった。また、龍昌寺が報道で取り上げられたことをきっかけに、食料に加え、寄せ書きや手紙、さらには合同葬儀のための生花や、800体の泥仏など、「心」の支援の輪が広がつていった。

しかし、被災した当初の約一週間は清水師自身、大きな心の落ち込みに襲われたという。何よりマスク COMMから届かなかつたこと、指定避難所ではないという理由で行政からの支援がないといふことで、見守られていた、「龍神さんが祀られている」「親がよくお参りしていた」といった、「見守られている」という、精神面での安心感があると語る避難者もいるという。

「でも、避難生活を送つてゐる方々の姿

清水師は「お寺に今まで以上に人を集め、皆で語りあえる場にすること」「子どもたちのために寺小屋を実現すること」などを目標に、龍昌寺が「なくてはならない存在」となるよう、日々活動している。何より、冒頭のことばにるように、「これまで支援してくれた方々のために、何が返せるか?」。それと生涯かけて考え、少しでも具体的に実践していくことが自分の務めであると、静かに語つてくれた。

文・写真／長岡俊成（広報委員会副委員長）



仏教会館入り口の、清水師からのメッセージ

災害からの復興後、支援してくれた方々に、何をお返しできるだらうか…

それが私の偽らざる悩みです。龍昌寺住職 清水誠勝



所信表明

第19期始まる 「今が明日への新たな一步」

全国曹洞宗青年会第19期会長 松岡広也



昭和48年11月生まれ
早稲田大学卒・駒澤大学卒
大本山總持寺平成12年安居
静岡県裾野市光明寺副住職

全 国曹洞宗青年会第19期会長就任に際し、皆様にご挨拶申し上げます。先ず、この度の東日本大震災で亡くなられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

被災地の各曹青会におかれましては、大地震や大津波による甚大な被害を受けながら、更には原発事故により大きな不安を抱える中、力強く復興支援活動に邁進されておられる姿は、正に第18期が掲げた慈悲行の実践であると敬意を表するところです。第19期全曹青としても、各曹青会が円滑に支援活動に臨めるような体制の構築に取り組んで参る所存です。

本期は、『今が明日への新たな一步』をスローガンに掲げ、2年間活動して参ります。“今”の連続が常に我々の活動精進の場であります。“今”と向き合い、“今”ある被災地の願いを第19期全曹青の願いとしてしっかりと受け止め、“今”を行することで、共に明日という未来へ勇気を持って新たな一步を踏み出して参りたいと考えております。

諸事業の企画・展開の柱となる3つの委員会を設置致します。総合企画委員会は、頒布活動を通して、会員や全国のご寺院様に還元できるような事業を展開致します。また、『觀世ふおん』は当委員会の事業として受け継いで参ります。広報委員会は、広報誌『SOUSEI』の編集とHP『般若』の管理を担当致します。会務の状況を鑑み、『SOUSEI』発行に関する経費の大幅な削減を図るため、4ページ減の20ページとなります。全ページがカラーとなります。法式委員会は、これまでの委員会独自の法式に関するスタイルを継承しつつ、現在の会員のニーズに応える事業を展開致します。

全曹青が加盟している全日本佛教青年会では、全曹青の村山博雅師が第18期理事長に就任致します。全曹青では『全日仏青執行特別委員会』を設置し、2年間任に当たらせていただきます。

私自身、これまで2期4年間全曹青に出向し活動して参りました。ここで新たに出会った青年宗侶と乳水和合し、様々な事業に関わらせていただいたことは、本当に有意義な経験であります。この貴重なご縁を頂戴した皆様方に深く感謝致しております。

『全曹青』には、特別な知識や経験がない者にも活動の場があります。

『全曹青』には、自由で創造的な活動を展開できる器があります。

それが『全曹青』の一番大きな魅力であると自信を持って申し上げます。

非才不徳の身ではございますが、第19期の全出向者がこれまで所属曹青会で培ってきた力を存分に發揮し、充実した2年間を務めきることができるような会務運営に、渾身を傾けて参る所存でございます。全国の会員諸師におかれましては、これから新たな一步を踏み出す第19期全曹青に対し、更なるご理解ご協力を賜りますよう伏してお願い申し上げまして、私からのご挨拶並びに所信とさせていただきます。



執行部・各委員会出向者・管区理事の紹介

【執行部】	
会長	松岡広也 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会
副会長	荒木道宗 北海道第一宗務所青年会
副会長	板倉省吾 いづも曹洞宗青年会
副会長	大山義道 京都曹洞宗青年会
顧問	久間泰弘 曹洞宗福島県青年会
会計	杉山大禪 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会
事務局長	太久保厚志 曹洞宗岐阜県青年会
総合企画委員長	安達瑞樹 兵庫県第二宗務所青年会
広報委員長	倉島隆行 三重原曹洞宗青年会
法式委員長	石黒英龍 新潟原曹洞宗青年会
事務局次長	渡邊文敬 茨城県曹洞宗青年会
庶務	里野和敬 四国地区曹洞宗青年会
庶務	久賀一興 佐賀原曹洞宗青年会
庶務	伊藤承章 東三河曹洞宗青年会
庶務	城市泰紀 石見曹洞宗青年会
庶務	長澤文雄 京都曹洞宗青年会
庶務	今枝真一 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会
庶務	近藤光俊 曹洞宗長野県第一青年会
監事	伊藤和貴 曹洞宗静岡県第一宗務所青年会
監事	櫻井尚孝 静岡第三同志会
監事	神谷俊英 北海道第一宗務所青年会
【総合企画委員会】	
細川伸道 個人会員(栃木原曹洞宗青年会)	瀧澤勝俊 曹洞宗福島県青年会
永島昌英 新潟県曹洞宗青年会	原知昭 いづも曹洞宗青年会
神作紹道 宮城県曹洞宗青年会	宮本隆弘 四国地区曹洞宗青年会
岡嶋典文 愛知県第一曹洞宗青年会	松林宏明 京都曹洞宗青年会
松林宏明 京都曹洞宗青年会	児島龍憲 北海道第二宗務所青年会
【法式委員会】	
加藤康由 東三河曹洞宗青年会	稻本顯隆 大阪曹洞宗青年会
中井良岳 愛知県第三曹洞宗青年会	河口智賢 曹洞宗山梨県青年会
吉岡統親 曹洞宗福島県青年会	菅生匡倫 北海道第三宗務所青年会
仲倉幸雄 曹洞宗鳥取県青年会	福田智徳 長崎県曹洞宗青年会
福田智徳 長崎県曹洞宗青年会	川本哲志 四国地区曹洞宗青年会
【講師】	
菅原研洲 桑山良規	市川輝博
【管区理事】	
北海道 副島豊道 北海道第三宗務所青年会	東北 稲田泰久 岩手県曹洞宗青年会
東北 東海 前田福之 愛知県第三曹洞宗青年会	関東 山本泰幸 曹洞宗山梨県青年会
北信越 横井利行 曹洞宗長野県第一青年会	近畿 天野祐至 京都曹洞宗青年会
近畿 中四国 清成良知 山口県曹洞宗青年会	九州 能仁賢宗 四国地区曹洞宗青年会
九州 秋吉龍成 鹿児島県曹洞宗青年会	山田俊哉 秋田原曹洞宗青年会
山田俊哉 青森県曹洞宗青年会	長岡俊成 青森県曹洞宗青年会

レポート 全曹青

定期評議委員会・総会開催

平成23年度

全国曹洞宗青年会



総会での挙手採決



第19期の顔ぶれ



承認を受け感謝する執行部

5

月18日午後1時半より、曹洞宗檀信徒会館3F桜の間に於いて、定期評議委員会が開催されました。前日からの執行部会、理事会を経て上程された平成22年度事業及び決算報告、平成23年度事業計画案、及び予算案が審議され、承認されました。また全曹青年会員の資格年齢の会則改正、そして会費に関する規定の改正についての議案が上程され、記名投票採決が行われました。資格年齢の改正は賛成多数にて可決されました。会費の改正については、「団体加盟での会費を現在団体割引後500円から割引無しの1000円に改定、但し施行には全会一致での賛成を求める」という案が賛成多数にて可決されました。全会一致とはならなかつたため、施行時期は各曹青会の意向を伺いつつ、今後は特別委員会にて審議をすることになりました。

また第19期執行部について承認がなされ、松岡新会長のもと新たな体制がスタートしました。

特別委員会として、会長選考委員会、災害復興支援部、全日仏青特別委員会、会費に関する特別委員会の設置が報告されました。

5月19日午前10時より、中央研修会が行われました。尾崎正善老師（曹洞宗総合研究センター客員研究員）をお招きし、「面山瑞方老師撰『僧堂清規行法鈔』について」と題しご講義を賜りました。会員60名程が参加し、熱心に耳を傾けておりました。

午後1時半より、定期総会が開催されました。開会後、議事に先立ち、東日本大震災被災物故者供養法要が厳修されました。引き続き、平成22年度事業及び決算報告、平成23年度事業計画案及び予算案の承認、第19期執行部の承認、会則改正の承認、特別委員会の設置などの議事がなされ、それぞれ参加者の多数の賛成により承認されました。最後に東日本大震災の復興支援活動についての報告があり、無事閉会しました。



尾崎正善老師



JYBA
ALL JAPAN YOUNG
BUDDHIST
ASSOCIATION

全日本
仏教
青年会
ニュース

花まつり千僧法要 東日本大震災復興も祈願

全日本佛教青年会／東大寺

平

成23年4月26日、東大寺に

おいて全日本佛教青年会主催（南都二六会・東大寺共催）による『花まつり千僧法要』が厳修されました。この法要は昭和63年に始められ、今回で24回目。聖武天皇が「生命あるものすべての幸福と安寧を願つて大仏造像を発意され、東大寺に千僧・万僧を招請してその開眼供養会を催された」との故事に倣つものです。

今年は東日本大震災被災地の復興も併せて祈願され、宗派を超えて集まつた多くの僧侶が法螺貝を先導に行列を組み大仏殿へ登壇。大仏（毘盧遮那仏）前で導師を勤められた宮寺守正師（全日本佛教青年会第17期理事長・全曹青第16期会長）が慶讃文を奉読されました。各団体法要も厳かに営まれ、天台佛教青年連盟による声明では手書きのメッセージが書かれた色とりどりの散華が撒かれ、参拝者の方々や修学旅行の学生達も大事そうに散華を手にする光景も見られました。



大仏殿へ行列し入堂

喜され、全曹青法式委員会の打ち鳴らす太鼓で大般若を転読、堂内に「降伏一切大魔最勝成就！」の大聲が響きました。アショカピラー宝塔前法要では一人ずつ焼香し、誕生仏に灌水して花まつりを祝いました。全曹青第19期副会長の板倉省吾師（いづも曹青会）は、「般若の梵風が遠く東北の地まで届き、犠牲者の方々のご冥福をお祈りすると共に、被災者の皆さんのが一日も早く救われ、被害から復興されますようにと願い祈りました」

全

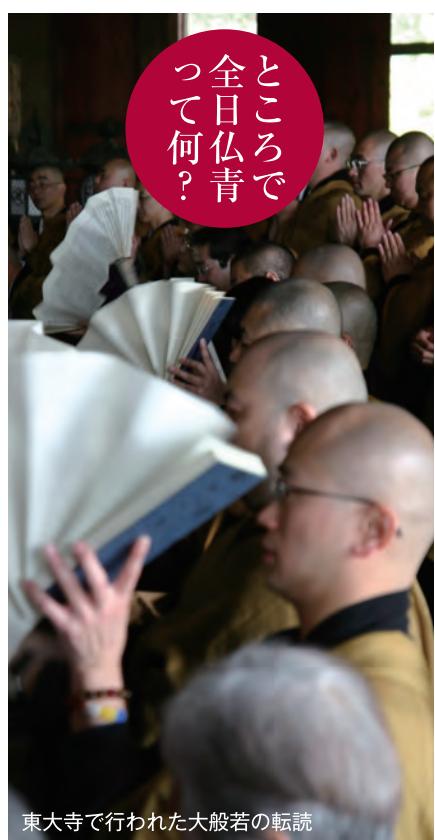
日本佛教青年会（略称・全
日曹青）とは、日本全国の

宗派・地域の垣根を越えて、青年
仏教徒相互の友好と連帯を目的と
して仏教青年会活動を展開してい
る団体で、現在、宗派曹青からは
8団体、地域曹青からは5団体が
参加加盟しています。

また、ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATIONとしてWFBY世界佛教徒青年連盟に加盟し、その日本センターを担つており、全世界の佛教徒との交流を深めつつ、佛教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目指し、活動を展開しています。

この度、第18期全日本佛教青年会理事長に村山博雅師（大阪曹洞宗青年会、大本山永平寺平成11年安居）が就任されました。村山師は「各宗派・各地域加盟団体が各々魅力ある活動をされております。

ところで
全日本曹青
つて何？



東大寺で行われた大般若の転読

【全日本曹青加盟団体】

天台佛教青年連盟、金峯山青年僧の会、全真言宗青年連盟、全国淨土宗青年会、融通念佛宗青年会、臨濟宗青年僧の会、全国曹洞宗青年会、全国日蓮宗青年会、埼玉県佛教青年会、神奈川県佛教青年会、大阪府佛教青年会、神戸市佛教青年会

会計報告

平成 23 年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出予算 期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

歳入合計金額 31,960,000 円
歳出合計金額 31,960,000 円

差し引き残額 0 円

歳入の部					
款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減
1. 基本運営費			3,082,202	4,449,910	△ 1,367,708
1. 会費			1,485,500	1,475,500	△ 10,000
1. 同上			1,485,500	1,475,500	△ 10,000
2. 総会費			1,596,702	2,974,410	△ 1,377,708
1. 前年度総額金			1,596,702	2,974,410	△ 1,377,708
2. 助成費			34,417,098	27,510,090	△ 6,907,008
1. 印刷費			11,000,000	7,500,000	△ 3,500,000
1. 同上			11,000,000	7,500,000	△ 3,500,000
2. 新規費			15,900,000	15,500,000	△ 400,000
1. 事業助成金			15,000,000	15,000,000	0
2. 協賛金			900,000	500,000	△ 400,000
3. 奉賀収入			7,500,000	4,500,000	△ 3,000,000
1. 同上			7,500,000	4,500,000	△ 3,000,000
4. 研修費			17,098	10,090	△ 7,008
1. 同上			17,098	10,090	△ 7,008
5. 捐贈収入			合 计	37,499,300	31,960,000 △ 5,539,300

歳出の部					
款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減
1. 基本運営費			9,849,300	9,400,000	△ 449,300
1. 会員費			7,500,000	1,200,000	△ 6,300,000
1. 会員費			3,500,000	500,000	△ 3,000,000
2. 総会費			4,000,000	700,000	△ 3,300,000
2. 総会費			800,000	7,000,000	△ 6,200,000
1. 役員会			3,800,000	3,800,000	0
2. 職員費			2,400,000	2,400,000	0
3. 海外交通費			800,000	800,000	0
3. 全日仏教開拓費			150,000	150,000	0
1. 費用金			150,000	150,000	0
4. 研修費			800,000	800,000	0
1. 通信費			300,000	300,000	0
2. 邮便費			300,000	300,000	0
3. 消耗品費			150,000	150,000	0
4. 憎品費			50,000	50,000	0
5. 捐贈費			99,300	50,000	△ 49,300
1. 同上			99,300	50,000	△ 49,300
6. 予想費			500,000	200,000	△ 300,000
1. 同上			500,000	200,000	△ 300,000
2. 事業費			27,650,000	22,560,000	△ 5,090,000
1. 会員会員費			7,400,000	5,100,000	△ 2,300,000
1. 会員会員費			1,700,000	1,400,000	△ 300,000
2. 広報委員会			2,300,000	2,700,000	△ 400,000
3. 法式委員会			2,100,000	1,000,000	△ 1,100,000
4. 基幹委員会委員会費			1,300,000	1,300,000	0
2. 事業費			6,700,000	5,500,000	△ 1,200,000
1. 本部事務費			5,500,000	4,000,000	△ 1,500,000
2. 研修会開催費			200,000	500,000	△ 300,000
3. 文化学林開催費			1,000,000	1,000,000	0
3. 捐贈費			12,350,000	10,400,000	△ 1,950,000
1. 編集費			5,200,000	3,100,000	△ 2,100,000
2. 印刷費			2,800,000	2,500,000	△ 300,000
3. 配送費			3,500,000	4,000,000	△ 500,000
4. 制作制作費			650,000	800,000	△ 50,000
4. 助成費			600,000	500,000	△ 100,000
1. 郡区大会助成金			600,000	500,000	△ 100,000
5. 組立費			600,000	600,000	0
1. ボランティア基金			100,000	100,000	0
2. 次期執行部準備金			500,000	500,000	0
6. 献金			10,000	10,000	0
1. 同上			10,000	10,000	0
7. 手数料			450,000	450,000	0
1. 同上			450,000	450,000	0
合 计			37,499,300	31,960,000	△ 5,539,300

* 例、各項目間の流用を認めらるのとする。

以上の通り、予算を実現致しました。

【特別会計】 ボランティア基金 4,695,493円

周年記念基金 2,000,000円

次期執行部準備金 669,962円

平成23年5月1日

全国曹洞宗青年会 会長 松岡 広也

会計 移山 大輔

平成 22 年度 全国曹洞宗青年会 歳入歳出決算報告書

期間 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

歳入合計金額 38,692,488 円

歳出合計金額 35,718,078 円

差し引き残額 2,974,410 円

歳入の部

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 会費			12,485,500	10,726,500	△ 1,759,000	
1. 同上			12,485,500	10,726,500	△ 1,759,000	
1. 同上			1,485,500	1,473,500	△ 10,000	500円+2,943円+1,000円+74
2. 賛助会			11,000,000	9,248,000	△ 1,752,000	178件
1. 同上			15,900,000	17,625,000	△ 1,725,000	
1. 同上			15,900,000	17,625,000	△ 1,725,000	
1. 同上			15,000,000	15,000,000	0	宗務庁より
2. 賛助会			900,000	2,625,000	△ 1,725,000	「そうせい」広告料・事業協賛費
3. 諸収入			7,517,098	8,364,592	△ 847,494	
1. 同上			7,517,098	8,364,592	△ 847,494	
1. 事業収入			7,500,000	8,362,567	△ 862,567	花まつり事業収入等
2. 捐収入			17,098	2,025	△ 15,073	寄付金・現金利息等
4. 研修金			379,694	379,694	0	
1. 同上			379,694	379,694	0	
1. 委員会費総額			1,596,702	1,596,702	0	
1. 同上			1,596,702	1,596,702	0	
1. 前年度総額金			1,596,702	1,596,702	0	
合 计			37,499,300	38,692,488	△ 1,193,188	

歳出の部

款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
1. 事業費			26,450,000	25,965,230	△ 484,770	
1. 会員費			7,400,000	7,400,000	0	
1. 会員費			1,700,000	1,700,000	0	別紙多額
2. 広報委員会費			2,300,000	2,300,000	0	別紙多額
3. 法式委員会費			2,100,000	2,100,000	0	別紙多額
4. 基幹委員会会費			1,300,000	1,300,000	0	別紙多額
2. 広報費			12,350,000	11,916,961	△ 433,039	
1. 印刷費			2,800,000	2,717,508	△ 82,492	「そうせい」印刷費
2. 郵便料			5,200,000	5,269,950	△ 69,950	「そうせい」簡易郵便
3. 封筒印刷費			850,000	677,775	△ 172,225	
4. 開送費			3,500,000	3,251,728	△ 248,272	「そうせい」郵便代
3. 本部事業費			6,500,000	6,585,129	△ 85,129	
1. 本部事業費			5,500,000	5,585,129	△ 85,129	電話相談室・花まつり事業等
2. 漢字化字林開催費			1,000,000	1,000,000	0	漢字化字林開催費
4. 研修費			200,000	63,140	△ 136,860	
1. 同上			200,000	63,140	△ 136,860	中央研修会等
2. 邸運費			9,949,300	9,152,848	△ 796,452	
1. 会議費			7,500,000	6,782,160	△ 717,840	
1. 会員会費			3,500,000	3,332,814	△ 167,186	執行部会・理事会
2. 総会費			4,000,000	3,449,346	△ 550,654	総会・評議員会・委員会総会
2. 事務費			500,000	465,587	△ 34,413	
1. 印刷消耗品費			150,000	47,434	△ 102,566	
2. 通信費			300,000	365,105	△ 65,105	
3. 郵便費			50,000	53,048	△ 3,048	
3. 捐贈費			1,850,000	1,902,449	△ 52,449	
1. 助成金			600,000	600,000	0	音楽大会 10万×6管弦
2. 鹿児島県			300,000	320,149	△ 20,149	音楽大会投資3万×6管弦等
3. 郵便料			150,000	150,000	0	音楽大会開催費用等
4. 交通費			800,000	832,300	△ 32,300	音楽大会・音楽大会開催費用等
4. 銀行			99,300	2,652	△ 96,648	
1. 同上			99,300	2,652	△ 96,648	
3. 積立金			600,000	600,000	0	
1. 同上			600,000	600,000	0	
1. 基金積立金			100,000	100,000	0	ボランティア基金積立
2. 積立金			500,000	500,000	0	次期執行部準備金積立
4. 予備費			500,000	0	△ 500,000	
1. 同上			500,000	0	△ 500,000	
1. 同上			500,000	0	△ 500,000	
合 计			37,499,300	35,718,078	△ 1,781,222	

※同、各項目の流用を認めるものとします。

差引残額 2,974,410円を次年度に繰り越し致します。

会則改正について

平成 21 年 11 月 27 日開催の臨時評議員会にて、評議員より全曹青の「会費金額の改定」について動議が出され、「会務会則に関する特別委員会」を設置し、審議することとなりました。また、第 19 期の会長選考において「資格年齢規定」が一因となり、候補者選定が難航し、異例ともいえる臨時総会を平成 22 年 11 月 22 日に開催して、第 19 期の全曹青会長が選任となりました。

このような現状を鑑みて、特別委員会では『会費』と『資格年齢』について検討議論を重ね、これらの問題に対して会則・規程の改正が必要であるという結論に至り、平成 23 年 5 月 18 日の定期評議員会において、次の二点について議案が上程されました。

【全曹青会員資格年齢の改正・上程理由】

現在、各曹青会において会員減が問題となってきたているようであり、それは直接的に全曹青へも影響を及ぼすものです。特に資格年齢が伴う正会員・会長候補者・執行部構成員の選考に如実に現れるものであり、第 19 期の会長選考が難航したのも資格年齢に依ることが一因でした。そこで正会員・会長候補者・執行部構成員の資格年齢を一歳引き上げ、人材の確保のみならず会に参画する個人の可能性を広げ、より多くの会員相互の繋がりが構築されることを狙いとするものです。

【会費変更に関わる規程変更・上程理由】

現在の会計状況を端的に示せば、定期評議員会・定期総会・臨時評議員会という基本的且つ重要な会務運営の経費およそ 300 万円強を、会費納入額では充当できていないということが数字からみても明らかです。近年、全曹青への賛助金の収入額が年々落ち込み、会務運営の大きな問題となっています。第 18 期執行部の始動時に、統合再編による委員会数減、交通費の支給減率、広報誌の改編などで支出削減に務め、同時に、頒布物を多様化し必要収入を確保してきました。しかし、年度決算を迎えるにあたり、金銭的側面からは存続が危機的状況から脱したとは言えず、見通しは明るくありません。そこで会員諸師のご理解ご協力を仰ぎ、会運営の原資である会費の改正を行うことで、会務執行の基盤を固め、連絡協議会としての本分を保持し、会員相互の繋がりを構築する魅力ある道場となるべく、改正を上程するものです。

【結果】

- ・資格年齢の改正は賛成多数にて可決されました。
- ・会費変更については、「団体加盟での会費を、現在の団体割引後の 500 円から割引無しの 1000 円に改定。但し施行には全会一致での賛成を求める」という案が賛成多数にて可決されました。
- ・しかし全会一致とはならなかったため、施行時期は全会的な一致を条件とし、この度の上程議案に反対・判断保留をした加盟団体が賛成に転じた時点で具体的な施行時期を決定することとなり、継続して特別委員会にて審議することになりました。以上の 2 点は、翌 5 月 19 日の定期総会にて議事がなされ、多数の参加者により承認されました。

山口県	北海道	福井県	東京	千葉県	静岡県	高知県	岐阜県	愛媛県	岩手県	青森県	北海道	岐阜県	愛知県
梨木島	井戸川	京葉	葉岡	知多	豊橋	大垣	郡山	愛知	岩手	森	北九州市	岐阜市	愛知県
県	県	県	県	県	県	県	県	県	県	県	県	県	県
道	道	道	都	都	都	府	都	都	県	県	道	市	県
県	県	県	都	都	都	都	都	都	県	県	県	市	県

総会祝賀披露
(順不同)

全国曹洞宗青年会 平成 22 年度特別会計（周年事業基金）報告

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

歳入総額	2,000,000 円
歳出総額	0 円
差引残額	2,000,000 円

(単位：円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	2,000,000	
合計	2,000,000	

全国曹洞宗青年会 平成 22 年度基金（次期執行部準備金）報告

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

歳入総額	1,000,000 円
歳出総額	310,038 円
差引残額	689,962 円

(単位：円)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	500,000	
積立金	500,000	
合計	1,000,000	

(単位：円)		
項目	金額	備考
交通費	297,100	
会議費	12,938	
合計	310,038	

以上の通り報告いたします。

平成 23 年 5 月 18 日
全国曹洞宗青年会 会長 久間 泰弘
会計 清原 文政

曹洞宗僧侶会館にて、会員・副会長立ち合いのものと、諸帳簿・庭園・関係書類を監査したところ、収入・支出・残高とともにそれぞれ合致し、過誤がつ正確に處理されていたことを報告いたします。

平成 23 年 5 月 18 日
全国曹洞宗青年会 総務 朝田 明貴
監事 齋藤 一孝

全国曹洞宗青年会 特別会計（ボランティア基金）報告

歳入総額	9,148,215 円
歳出総額	2,400,000 円
差引残額	6,748,215 円

(単位：円、敬称略)		
項目	金額	備考
前年度繰越金	2,660,939	
積立金	100,000	
支援金	6,387,276	次頁にて掲載
	9,148,215	

歳出の部 2011/4/1 第一回支出

(単位：円、敬称略)		
項目	金額	備考
山口県曹洞宗青年会	50,000	豪雨災害見舞金
秋田県曹洞宗青年会	50,000	復興活動支援金
山形県曹洞宗青年会	50,000	復興活動支援金
青森県長野原第一青年会	50,000	復興活動支援金
千葉県曹洞宗青年会	100,000	見舞金・復興活動支援金
青森県曹洞宗青年会	100,000	見舞金・復興活動支援金
茨城県曹洞宗青年会	100,000	見舞金・復興活動支援金
福島県曹洞宗青年会	200,000	見舞金・復興活動支援金
岩手県曹洞宗青年会	200,000	見舞金・復興活動支援金
宮城県曹洞宗青年会	200,000	見舞金・復興活動支援金
合計	1,100,000	

歳出の部 2011/6/21 第二回支出

(単位：円、敬称略)		
項目	金額	備考
曹洞宗福島県青年会	300,000	復興活動支援金
新潟県曹洞宗青年会	100,000	復興活動支援金
秋田県曹洞宗青年会	100,000	復興活動支援金
岩手県曹洞宗青年会	300,000	復興活動支援金
宮城県曹洞宗青年会	300,000	復興活動支援金
山形県曹洞宗青年会	100,000	復興活動支援金
青森県曹洞宗青年会	100,000	復興活動支援金
合計	1,300,000	

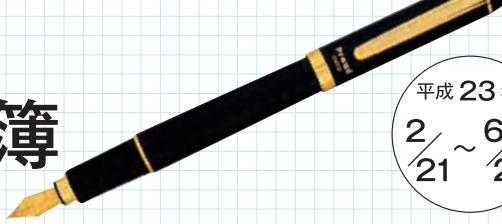
全国曹洞宗青年会の活動は皆様の賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

ボランティア基金感謝録

平成 23 年 3/27 ~ 6/30 取扱分

贊助費淨納御芳名簿



平成 23 年
2 / 21 ~ 6 / 20

第一回 坐禅と傾聴の類似性



広報委員会委託委員 青野貴芳

本稿の目的は、坐禅と傾聴の類似性を、「メタ認知」という概念を媒介として指摘することにあります（メタ認知については次号以降で説明します）。とはいえ、このアイデアが正しいかどうかは分かりませんし、検証の手段も思いつきません。そんな内容の文章に貴重な誌面を割いていいものかと懸念いたしましたし、諸方面より叱りを受けそうです。ですが、本論により、僧侶の活動について認識を新たにすることができるのではないかと心中密かに期するところもありますので（公言していますが）、勇気を奮って書き進めていきます。読者の皆様には、一つのエッセイのつもりで読み進めていただければと乞い願います。

今回は、初回ということで、まずは、このアイデアを思いついた経緯に触れつつ、本稿の目論見についてお話ししたいと思います。

筆者は、昨期の全曹青では、基幹事業委員会に所属しておりました。ご存知の方も多いと思いますが、この委員会は、電話相談員養成研修の実施が主な活動でした。委員は研修会で講師を務めなければならなかつたので（結果的に、私は大したことはできませんでしたが）、必然的に、電話相談及びその基本となる傾聴について学ばざるをえなくなりました。

心理療法やカウンセリングには高校生の頃から興味があり、以来、関連書に時々目を通す程度の関心は持ち続けできました。しかし、カール・ロジャーズを祖とする傾聴技法については、日本ではその分野の主流であることは承知していたものの、まったく関心がありませんでした。以前、社会福祉や心理関係の資格を取得する際、傾聴の実習も行いましたが、「話をよく聞くのは

大切だらうな」くらいにしか思いませんでした。

相手の話をよく聴かなければ主訴が分かりませんから、傾聴するには当然でしょう。しかし、傾聴自体によって心理的な変容がもたらされる

というの、ちょっと・・・。話をしてすつきりするという以上のものではないんじゃないかと思つていました。

そんな思いを持ちつつ基幹事業委員になつてしましましたが、あるとき、ふと、天啓のごとく思つきました。坐禅と傾聴は、外觀こそまったく異なるが、実は同様な仕組を持つのではないか・・・。そのアイデアを得てからは、俄然、傾聴に興味が湧いてきました。

ただし、傾聴の仕組は、はつきりと説明されてはいないと思います。筆者の勉強不足かもしれません、傾聴に関する本や講義の中でも、その点についての説明はなかつたように記憶しています。もつとも、心理療法は仕組が

全くないものが多いという話は耳に聞きましたが、傾聴に興味が湧いてきましたが、よく耳にしたのが、「僧侶であるならば、法を説くべきですか」というものです。話を聞いているだけでは、僧侶が相談活動を行う意味がないというわけです。

口業説法だけが説法というわけではないでしょから、傾聴する姿勢も説法の一種と捉えていいように思います。しかし、坐禅と傾聴が同様の構造を持つものであるならばどうでしょか。傾聴は坐禅の一つのあり方ということになり、仏行において、より積極的で

ません。

そのようなわけで、本論はあくまでも仮説（しかも、素人の）ですが、敢えて公言する目的は以下の通りです。

（行住坐臥の一挙手一投足を「坐禅」と解すべきでしょし、「対人的な活動」）＝「仏行」＝「坐禪」と捉えるべきでしょ

うが、以下の文中では、混乱を避けるため、「坐禪」の語は限定的な意味で用いています。

全曹青の委員会活動を行う中で、電話相談事業に關して様々な疑問や意見を聞きましたが、よく耳にしたのが、「僧侶であるならば、法を説くべきですか」というものです。話を聞いているだけでは、僧侶が相談活動を行う意味がないというわけです。

口業説法だけが説法というわけではないでしょから、傾聴する姿勢も説法の一種と捉えていいように思います。

しかし、坐禅と傾聴が同様の構造を持つものであるならばどうでしょか。傾聴は坐禅の一つのあり方ということになり、仏行において、より積極的で



中心的な意味を持つてくるのではない
かと思います。一方、坐禅と傾聴がまつ
たく別個のものであるならば、傾聴は、
弁道力を生かした活動であるとか、「慈
悲の実践」というような捉え方をされ
るのではないでしょうか。

また、坐禅というと、内にこもつて
行うものだというイメージがどうして
もつきまとったように思います。「坐禅で
は人を救えない」という理由で、坐禅
に重きを置かない方もおられると聞き
ます。このような立場に立つ方は、必
然的に、対人援助的な社会活動を重視
するでしょう。

逆に、内にこもつて坐禅する時間を
もっと持つべきだという立場もあるで
しょう。原理主義的であると思われる
かもしませんが、そもそも、お釈迦
様の時代、修行僧は一日の大部を坐
禪して過ごしていたわけですし、両祖
様も坐禅を最重要視していたのですか
ら、坐禅を重んじるのは当然でしょう。
また、あくまでも私見ですが、葬儀や
追善供養は、人々の宗教的ニーズに対
応した社会活動だと思いますので、日
本佛教は、事実上、既に社会活動が中
心になつていると言えます。なので、
現状で、葬儀等に上乗せして、更に社
会活動を行うことは、程度にもよりま
すが、相応に日常生活への負担が加重
されるのではないか、と思います。
それはさておき、社会活動を重んじ
る立場と坐禅を重んじる立場は、とも

すれば対立的な立場になつてしまふの
ではないかと思います（両方とも十分
に実践するのは時間的に難しいと思う
のですが、いかがでしょうか）。

しかし、廃れてしまつたと言われて
いる修行法に、「他者の観察」（他者を
観察対象とする坐禅）「自他の観察」（自
他を観察対象とする坐禅）があります。

この二種の坐禅については、近年、井
上ウイマラ師^{*2}が言及しておられます
が、コミニニケーションを基盤とした坐禅
だと考えられます。『大念處經』『念處經』
等において「自己の観察」「他者の観察」
「自他の観察」が等置されていることが
らすると、坐禅は、本来、孤独な作業
に止まるものではなく、人と人とのコ
ミュニケーションの中でも行われるべき
ものだったのではないかとも思えま
す。そして、傾聴という支援のあり方は、
コミュニケーションを基盤とする坐禅
に最もふさわしい形態ではないかと筆
者は考えます。

すなわち、坐禅と傾聴を結び付ける
ことにより、「他者の観察」「自他の観察」
が現代的な装いで復興され、また、坐
禅と社会活動を対極的なものと捉え、
どちらかを偏重することもなくなるの
ではないかと期待するのです。

*1 1902～1987、アメリカの臨床心理学
者。彼の創始した来談者中心療法は、本文中にもあ
るよう、日本ではカウンセリングの主流となつて
いる。
*2 1959～、高野山大学スピリチュアルケア
学科准教授、瞑想指導者。曹洞宗と上座仏教で修行。
心理療法にも造詣が深い。



青野貴芳（あおの きほう）
1970年静岡県生まれ。東
京大学大学院満期退学。大
本山永平寺、宝慶寺にて安
居。現在、養雲寺副住職、
中里保育園園長、愛知学院
大学・富士市立看護専門学
校非常勤講師、全曹青広報
委員会委託委員。

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…
どんなことでもお電話で
ご相談下さい。

TEL 080-1546-7464

TEL 080-1547-5646

毎週日曜 22:00～24:00

※相談料は無料（通話料は必要です）



Air Mail 海外ZEN通信

ヨーロッパ国際布教総監部庶務担当／釜田尚紀



昨年10月に禅道尼苑で開催したヨーロッパ国際総監部主催セミナー。右上が筆者。

第一回 “Je ne parle pas français”(私はフランス語を話しません)

ナリュー！ パリに来て早10ヶ月。それだけ住めば、ずいぶん言葉も喋れ、生活も慣れたのではとよく聞かれるけれど、とんでもない。依然、僕はパリの街が苦手だし、フランス語もまったく理解できないまま。

なぜこんなことになっているのか、僕にもちょっと理解しがたいけれど（笑）、まずは僕の置かれた状況を説明してみよう。

僕はいま、パリ所在のヨーロッパ国際布教総監部というところに配属され、その庶務担当の任にある。その名称のとおり、ヨーロッパにおける国際布教にまつわる諸事務を行うのが役目なのだが、みなさんは曹洞宗にこのような海外機関があるのをご存知だったろうか？ ちなみに総監部は合計4つ、ほかには、アメリカのハワイとロサンゼルス、ブラジルのサンパウロにある。

渡仏前、「この度ヨーロッパ国際布教総監部に配属になりました」と報告したりすると、「へー、じゃああんたヨーロッパで禅を広めるんかー!?」と感心してくださいる宗侶の方が多かった。う～ん、でもちょっと違います。僕らの仕事は主に書類の進達業務がメイン。そんなとき僕はよく「宗務所の海外版みたいなものですよ」と説明する。

ヨーロッパ宗侶の「僧籍登録」「結制申請」といった書類を受け取り、奥書して、日本の曹洞宗宗務厅に進達する。そして、ヨーロッパの場合とくにそうなのだが、僕らが実際に一般の人々に坐禅指導することはほとんどない。この地で布教に専念しているのは「国際布教師」と呼ばれる方々で、僕らは彼らのために教化資料を配布したり、相談にのったり、年1回研修会を開いたり、いわば間接的に教化のお手伝いをしている。すなわち海外版宗務所という所以である。

現在ヨーロッパで曹洞宗の僧籍登録をしている人はおよそ300名。この数が多いのか、少ないのか、僕にはその判

断がつかない。でも来た当初「こんなにも外国人のお坊さんがいるんだ」と僕はずいぶん感動したのだった。

オフィスは僕を含めて4人構成。ボスである総監は日本で10年の修行歴がある日本語ペラペラのイタリア人。そしてこの職に就いてもうすぐ4年になる山形出身の同僚、あとは週3回パートタイムでやってくる在仏歴の長い日本人の事務員さん。というわけで、僕らの共通言語は必然日本語である。

ちなみに僕は今オフィスで寝泊まりをしている。庶務担当は赴任するとすぐに家探しをするのだが、パリのアパート探しは大変で、約3ヶ月はオフィス暮らしをする事になる。僕の場合、オフィスの移転が検討されていることもあってこんなに長く住むことに！ 通勤する必要がないのはいいが、下手をすれば一日外へ出ず。だから僕は時折パリにいることを忘れてしまう……。仏語はもちろん参考書を読んで（時々）勉強している。でも日本で独学しているのとそう大差がないので、そんな簡単に上達するわけがない。どうだろう、少しは状況がご理解いただけただろうか？

でも朗報。最近、ようやく自分のアパートマンが見つかりました！ これでようやくスタートラインに立てます。遅ればせながら何かが動き出す予感。

そんな訳で、この連載では、まだ右も左も分からぬ新米庶務が見たヨーロッパの曹洞宗を紹介していきます。なにぶん仏語が喋れず、経験も浅いので、正確にお伝えすることはできないかもしれませんか、その分、まだ定まりきっていない、僕の発展途上の見聞をリアルにお伝えできるのではないかと考えます。

次回！ アパート探しの苦労話、を聞いてほしいところだけど、まずは欧洲における曹洞禪の始まりを紹介しないといけませんね。それでは、またお会いしましょう。
アビアント一。



開会式の様子

第41回九州曹洞宗青年会総会 大分大会レポート

梅雨の時節、天候等心配されておりましたが、当日は天候に恵まれ、各県青年会諸師方の協力もあり九州曹洞宗青年会総会大分大会は無事円成いたしました。各県曹洞宗青年会並びに、全国曹洞宗青年会より80名余りの参加があり、大会がスムーズに進行したのは、「九州は一つ」のスローガンが浸透していっている成果ではないかと思います。

総会後は、芸人の松元ヒロさんによる公演がありました。さすが芸人さんともいえる笑いが会場にあふれておりました。さらには今の日本に訴える話があり、我々僧侶へのメッセージがあり、僧侶として非常にためになる講演でありました。特に会場全体を盛り上げる話術はすばらしいものでした。総会、講演と終了し、懇親会でさらなる交流を深めました。

最後に、今の日本の置かれている状況を考え、中止等を含めて計画していましたが、このような状況であるからこそ、九州一丸となつて対応していくことを考え、開催に到りましたことを報告させていただきます。

九曹青・村上有紀会長より

東日本大震災の被災者の皆様に、九州曹洞宗青年会を代表してお見舞い申上げます。

PROGRAM ◎プログラム

第41回九州曹洞宗青年会 大分大会

日時：平成23年6月21日(火)
場所：別府温泉 ホテル白菊

総会次第
開会の辞
挨拶

1. 九州曹洞宗青年会会长
 2. 全国曹洞宗青年会会长
- 議長選出
議案審議
第1号議案 平成22年度事業報告
第2号議案 平成22年度会計報告
第3号議案 会計監査報告
第4号議案 平成23年度事業計画(案)
第5号議案 平成23年度予算(案)

諸連絡事項

- (1) 全国曹洞宗青年会
 - (2) 各県曹洞宗青年会
- 日程説明等
閉会の辞



別府温泉ホテル白菊での大会風景（上）
松本ヒロ氏による講演（下）

**京法衣 仏具 曹洞宗専門
梅花流法具指定販売店**

古代 に学び 新しき を創る

木崎 勉法衣仏具店

〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町51
TEL (075) 681-3441 FAX (075) 671-7260
フリーダイヤル 0120-02-3441

こちら
全曹青
real voice



■板倉副会長

所属するいざも曹洞

所属するいづも曹洞宗青年会の宗務所管内（島根第二）では、両本山を等しく愛山

松岡会長

和はこれで、金間
全曹青に出向し、有
意義な経験をさせて
いただきました。全

の会員との出会いを通して答えて見つけ、様々な事業を実現していくだけのよくな会であり続けてほしいと願っております。全曹青の魅力を全国にアピールし、会員にとって、もっと身近な「全曹青」となるよう2年間頑張って参ります。

■荒木副会長

A portrait photograph of a middle-aged man with a shaved head, wearing a dark suit jacket over a white collared shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

師嗣2代に渡つての青年会への関わりに強く因縁を感じた。不惑を前に再び全曹青への出向、もう青年僧でもあるまいと思っていたが：諸先輩方々の全曹青への思いを感じ身が引き締まる思いである。自分を育ててくれた青年会に最後の奉公のつもりで務める所存。

所属するいすゞも曹洞宗青年会の宗務所管内（島根第二）では、兩本山を等しく愛山護持することを目的として、有道会・總和会の垣根を払つた「雲国両山会」を組織しています。この全国的にも稀な組織体系こそ、管内宗侶の根本精神を表象しています。通幻派の教線が強い土地柄ですが、宗門を根源的な和合僧と捉えるこの組織と、その結成を英断された諸先輩の叡智は、私にとつて「故郷の宝」であり「誇り」です。全曹青が乳水和合の僧伽となるべく奉仕することを、私の職分として誓つて参ります。

第19期の初会議が始まるや46分後強烈な地震に襲われました。直ちにボランティア支援活動が始まり、私も出来うる限り被災地に足を運んでいます。直接お会いし、顔を向き合わせ、コミュニケーションをとることに心掛けております。現在進行形の次々と回ってくる仕事をつなぐのに精一杯では有りますが、誠実に2年間、会の運営に携わるよう努力して行きます。どうぞよろしくお願いします。

全曹責 災害復興支援部からのお知らせ

災害復興支援現地本部では、8/1～8/21まで各団体よりの活動受け入れをお休みします。被災地では、避難所から仮設住宅に生活空間が移行しつつあり、仮設住宅での行茶活動のニーズが多くなってきました。今後も一層のご協力を宜しくお願い申し上げます。

＜物資支援のお願い＞

現在、行茶活動にて使用する飲料水と菓子が不足しております。
※物資をお送り頂く際には元払い発送にてお願ひ致します。

※菓子はなるべく賞味期限の長いもので助かります。

■全曹青 災害復興支援現地本部

〒960-0806 福島県伊達市靈山町山戸田字中ノ内20
TEL 024-564-2825 Fax 024-564-2826 携帯 080-1160-3272

兩大本山御用達
梅花流漆具販賣指掌店

洁衣·装束·莊嚴·神化是·體答用記念品

株式会社 梅金商店

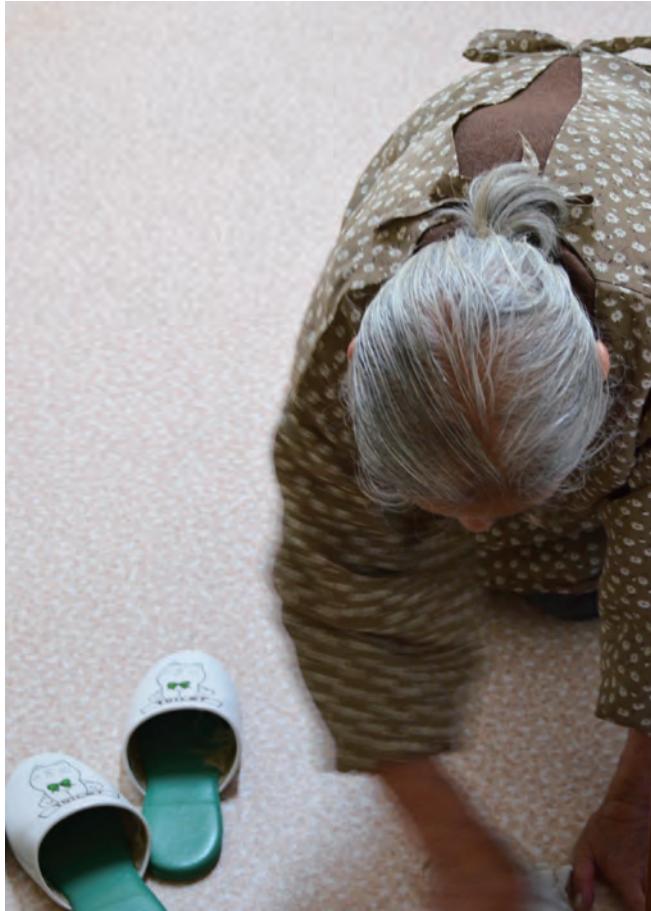
(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904

「布施」

撮影：万年守玄（広報委員）

ただただお寺のため、無心で一生懸命に作務をする姿。また、お檀家様が気持ち良くお参りできるようにする姿に感銘を受けました。



【募集要項】全曹青広報委員会では、皆様からの写真作品を募集しております。詳しくは下記のメールアドレスまでお問い合わせください。photo@sousei.gr.jp 次回テーマは「愛語」です。



震災で避難所となつた龍昌寺さまへの取材。見渡す限りの瓦礫の山の奥で、ご家族と共にお寺を守つ

てこられたご住職からは、新聞やテレビの報道では知り得なかつた、様々な苦悩を伺うことができました。「一対一で直接向き合つてくださつたからこそ、伝わることができます」。そのことを身をもつて実感した経験でした。この『sousei』は紙媒体ですから、

当然、コミュニケーション上の限界はあるはず。そしてまた、「般若」も然りです。でも、少しでもこの二つの媒体を通して、「全国の青年会員の皆さん、そしてお寺を支えてくださっている皆さんと心を通わせたい」。「青年宗侶の、息づかい、を伝えたい」。私たちはそう思つのです。

今期の新たな挑戦にご期待ください。そして、もし、私たちからのボールを受け取つてくれたなら、出来るなら投げ返して欲しい。新たな期が始まるにあたつての、私たちからのお願いです。
(広報副委員長・長岡俊成)

■ 表紙の話 「出坐り三方」

複袱子（ふくさ）を掛けた三方に載せた「回向双紙」を、諷経の際に維那に伝到し、回向終わって収める進退作法をいう。（祖山行法指南より）

「第19期スローガン『今が明日への新たな一步』その若々しく力強い「動」の中にも宗門の法式作法の基本を疎かにする事なく、真っ直ぐな歩みをイメージし表紙撮影・デザインを行いました」

撮影：日山賢吾 デザイン：広瀬知哲

大道晃仙禅師ご遷化
曹洞宗前管長で大本山總持寺前貫首の大通晃仙禅師が平成23年6月25日、北海道釧路市定光寺にてご遷化なされました。93歳でした。ご遷化を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

守り伝えられし大切な伽藍、
私たちの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



<http://www.caname-jisha.jp>

- 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300
- 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882
- 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541

Soto Zen Buddhism International Symposium

DATE: Tuesday, October 4, 2011 (Registration 12:00 Open 13:00)

PLACE: Tokyo Grand Hotel (2-5-2 Shiba, Minato-ku, Tokyo)

PROGRAM

12:00 Registration
13:00 International Symposium Theme "Advance One Step Further —Soto Zen Opens The Way To The Future—"
World Peace Memorial Ceremony Officiated by Rev. Koichi Sasaki (President of Sotushu Shumuso)
13:30 Keynote Lecture Associate Prof. Noriyuki Ueda
14:45 International Dissemination Presentation Rev. Shugen Konagai (Hawaii) Rev. Daigaku Rummé (North America) Rev. Dosho Saikawa (South America) Rev. Jiso Forzani (Europe)
16:00 Panel Discussion Panellists: The Directors of each offices, Associate Prof. Noriyuki Ueda Moderator: Rev. Issho Fujita
17:00 International Joint Statement Rev. Ryubun Kamada (Director of the Education and Dissemination Division)

* Simultaneous English translation will be available.

ADMISSION: Free

CAPACITY: 100 (Advanced Reservation Required)

RESERVATION: TEL: 03-3454-5493 FAX: 03-3454-5449

& CONTACT E-mail: kokusaika@sotozen.jp

Sponsored by: Sotushu Shumuso, Dainonzan Eiheiji, Dainonzan Sojiji
Soto Zen Buddhism Hawaii, North America,
South America and Europe Offices
Presented by: Soto Zen Buddhism International Center

Soto Zen Buddhism International Symposium

国際シンポジウム

日 時 平成 23 年 10 月 4 日 (火)

12:00 受付 13:00 開会

場 所 東京グランドホテル (東京都港区芝2-5-2)

プログラム

12:00 受付
13:00 国際シンポジウム テーマ:「進歩・未来への道をひらく曹洞禅」 世界平和祈念大法要 導師:佐々木孝一宗務総長
13:30 基調講演 上田紀行氏 (東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授)
14:45 国際布教プレゼンテーション ハワイ国际布教監修 舞形宗彦師 北アメリカ国际布教監修 ルメー大岳師 南アメリカ国际布教監修 宮川道昭師 ヨーロッパ国际布教監修 フォルサー二慈相師
16:00 バネルディスカッション パネリスト: 各国國際布教監修、上田紀行氏 司会: 国際センター長 藤田一輝
17:00 國際共同宣言 釜田隆文教化部長

(英語による同時通訳あり)

費 用 無 料
定 員 100 名 (事前申込・先着順)

協 力: 曹洞宗宗務庁、大本山永平寺、大本山總持寺
ハワイ・北アメリカ・南アメリカ・ヨーロッパ各國國際布教監修部
主 催: 曹洞宗国際センター

お申込み・お問い合わせについては、曹洞宗宗務庁教化部国際課までお願い致します
TEL: 03-3454-5493 FAX: 03-3454-5449
E-mail: kokusaika@sotozen.jp

今が明日への新たな一步!



【般若コンテンツ紹介】

SanGa / お寺のホームページを手軽に制作していただけます。
sousei on web / 曹青会だより等に使用していただける写真
が掲載されています。パスワード「1902」を入力して下さい。

